

〈沖縄〉を創る、〈アジア〉を繋ぐ

「復帰」40+1年とサンフランシスコ講和条約 60+1年

発言Ⅰ 東アジア関係のなかの日本と沖縄 李鐘元(早稲田大学教授、国際政治)
発言Ⅱ 「尖閣」と「釣魚」のあいだで 丸川哲史(明治大学教授、東アジア文化論)
発言Ⅲ 八重山の波濤 大田静男(八重山郷土史家)
発言Ⅳ 沖縄の自立の思想的拠点 仲里効(映像批評家)
コーディネーター:長元朝浩(沖縄タイムス論説委員長)

と き:2003年5月18日(土)午後2時~5時

と ころ:自治会館中ホール 資料代:500円

主 催:5月沖縄シンポ実行委員会 098-863-3523



「抑止力」「中国脅威」「島嶼防衛」「固有の領土」「主権回復の日」などなど、
出来事の深層に目をつぶり勇ましく飛び交う言葉たち。

いま、東アジアの緊張と対立を通して、領土、主権、国境、国家という近代を律してきた
パラダイムが根本から問い直されようとしている。

「復帰」40+1年とサンフランシスコ講話条約 60+1年——沖縄の経験を置き去りにし、今に至る

日本の戦後と東アジアの冷戦の起源の閉鎖空間を解き放ち、はじまりのための〈1〉を書き込むことはできるのか。

終わらない占領と植民地主義から始まるアジアへ、歴史意識の深層の扉をこじ開け、新たなる〈アジア・沖縄〉の
思想は生まれなければならない。ここ沖縄から。